

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 マルコによる福音書 6：45～56

2022年11月19日(水)

◆文脈と言葉

- 主イエスは世の中で認められず、誤解されながらもさまざまな仕方で歩まれます。神の国を宣べ伝え、病人を癒やし、悪霊を追い出されます。そして、弟子にすら誤解されながらも、ともに歩み、教え、励まされるのです。
- 12人の弟子にご自分の権威を与え、世に派遣なさった主イエスは、その働きを顧み(6:30-31)、しかし仕え続けるようにと教えられます(6:37)。
- 群衆もまた主イエスを求めて集まってきます。(6:31b、33、54-56)。

◆黙想のすじみち

(1)あらすじと説き明かし

- 主イエスの水上歩行は、人には信じがたい出来事ですが、福音として読むならば、恐れおびえる弟子たちに大きな慰めとなります。
- 主イエスは弟子たちを強いて船に乗せ、出発させられました。権威の源である父なる神と一人で向き合い祈るためです。弟子たちにとっては、信仰が試される状況へと遣わされることとなります。主イエスは弟子たちが困っているのを知り、助けに来てくださいます。
- 奇跡的な登場、それを見た人たち(弟子たち)の恐れ、「私だ」、「恐れることはない」という言葉から神の顕現であることがわかります。
- 弟子たちは、この主イエスの登場が恵みあふれたものであることに気がつきません。そこで主イエスは船に乗り込まれます。ただ離れたところに登場する神ではなく、ともに船に乗り、そばにいてくださる人としての体をもった方なのです。
- 弟子たちと対象的に対岸の群衆は主イエスを追い回します。たしかに、群衆も主イエスを病気を癒す人としてか理解していなかったかもしれませんが。それでも主イエスは癒やされます。
- わたしたちは奇跡を求めるのではなく、主イエスを求めるべきです。ここに語られる良い知らせは、わたしたちが不十分で無理解であっても、主イエスがわたしたちの困難を知ってくださること、父なる神と同様に、主イエスが救い、癒やす力を持ってくださることです。

- (2)登場人物(人・神)：人間は何を考え何をしたか、どのように描かれているのでしょうか。神はどのように登場人物を見、関わっておられるのでしょうか。

主イエス：

十二人の弟子たち：

(3)内容・意味：この箇所では語られていることの意味は何だと思えますか。神（父・子・聖霊）は何をなさり、何とおっしゃっているのでしょうか。

(4)自分にとって

この聖書箇所は、自分に対してはどのように語りかけていると思えますか。

(5)語られる恵み。

この箇所から自分に語られた恵みは何だと思えますか。

(6)恵みに応える私たちの生き方・生活

恵みを受けた者としてどのようなお応えのしかたがあるのでしょうか。